

豊かな自然の中にある 国立青少年「交流の家・自然の家」

感動体験を日常に活かす

「体験活動を通じた青少年の自立」を目指し、北海道から沖縄まで全国28施設において、学校や青少年たちに立地条件を活かした特色ある感動体験を提供するとともに、青少年教育指導者の研修、青少年教育に関する調査研究、青少年団体等への助成にも取り組んでいます。



国立青少年教育施設で「感動体験」してみませんか？

国立青少年交流の家

国立青少年自然の家

- ◆学校利用の宿泊料金は無料
(シーツ洗濯料200円+食事代3食1,640円程度)
- ◆各施設・地域の特色を生かした活動プログラムを提供
- ◆利用相談におけるカリキュラム・マネジメントは、専門職にお任せください
- ◆広大な敷地で大人数受入可能。充実した研修設備や活動環境が整っています

国立オリンピック記念青少年総合センター

- ◆低廉な利用料金(学校団体宿泊料1人1泊1,800円～)
- ◆東京都心へのアクセス良好
- ◆修学旅行などでご利用いただけます

☎ 03-6407-7752 (民間企業等連携促進室)

✉ honbu-minkan@niye.go.jp

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3番1号

<http://www.niye.go.jp>

● 国立青少年教育振興機構のホームページをご覧ください。

青少年機構

検索

「体験の風をおこそう」運動推進中!

近年、社会が豊かで便利になる中で、子供たちの自然体験、社会体験、生活体験などの体験が減少している傾向にあります。国立青少年教育振興機構では、子供たちの健やかな成長にとって体験がいかに重要であるかを広く家庭や社会に伝え、社会全体で体験活動を推進する機運を高める「体験の風をおこそう」運動を青少年団体と連携して進めています。

「体験の風をおこそう」ホームページ <http://taikennokaze.jp/>

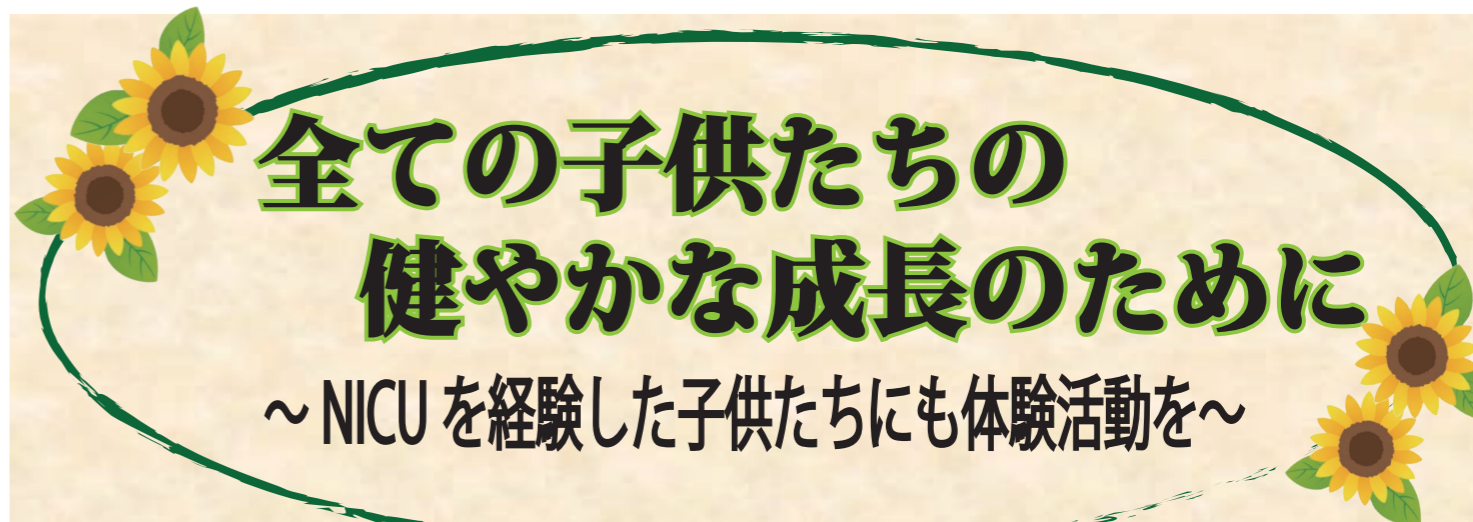


「早寝早起き朝ごはん」国民運動推進中!

子供たちが健やかに成長していくためには、「早寝早起き」をすることや「朝ごはん」を食べることなどの基本的な生活習慣を身につけることが重要です。国立青少年教育振興機構では「早寝早起き朝ごはん」国民運動を積極的に推進しています。

「早寝早起き朝ごはん」ホームページ

<http://www.hayanehayaoki.jp>



当機構は「体験活動を通じた青少年の自立」を目指して、青少年教育3法人が統合し、我が国の青少年教育のナショナルセンターとして平成18年4月に発足しました。当機構が有する全国28の宿泊型の教育施設(国立オリンピック記念青少年総合センター、国立青少年交流の家(13か所)、国立青少年自然の家(14か所))では、それぞれの立地条件を活かした特色のある活動を展開し、生きる力の育成に必要な自然体験活動、集団宿泊活動をはじめ、多様な体験活動の機会の提供に努めています。



当機構が実施した調査では、子供の頃に体験活動をした経験が多いほど、大人になったときの資質や能力が高くなる傾向があることや、生活習慣が身についている子供ほど、自己肯定感等の能力が高くなる傾向があることもわかりました。そこで、社会全体で青少年の基本的な生活習慣の確立を推進する「早寝早起き朝ごはん」国民運動や、様々な体験活動の場や機会の充実を図る「体験の風をおこそう」運動を推進しています。

また、全国28の教育施設は、ご家族・学校・青少年団体・企業研修・スポーツ合宿等年間のべ約500万人の方にご利用いただいています。各施設では、幼児を含む家族向けの事業など年間計600ほどの教育事業等を実施しており、様々な課題を抱える子供たちの体験活動を支援することにも取り組んでいます。

今回ご紹介する「すすくすくキャンプ」のように、NICU経験の子供たちなど特別な支援が必要な子供たちへの体験活動の場を提供することにも、様々な方と連携・協力して、今後、積極的に取り組みたいと考えています。

国立青少年教育振興機構 理事長
鈴木 みゆき



連絡先：国立青少年教育振興機構

民間企業等連携促進室

☎ 03-6407-7752

✉ honbu-minkan@niye.go.jp

事例紹介



「すくすくキャンプ」の取り組み

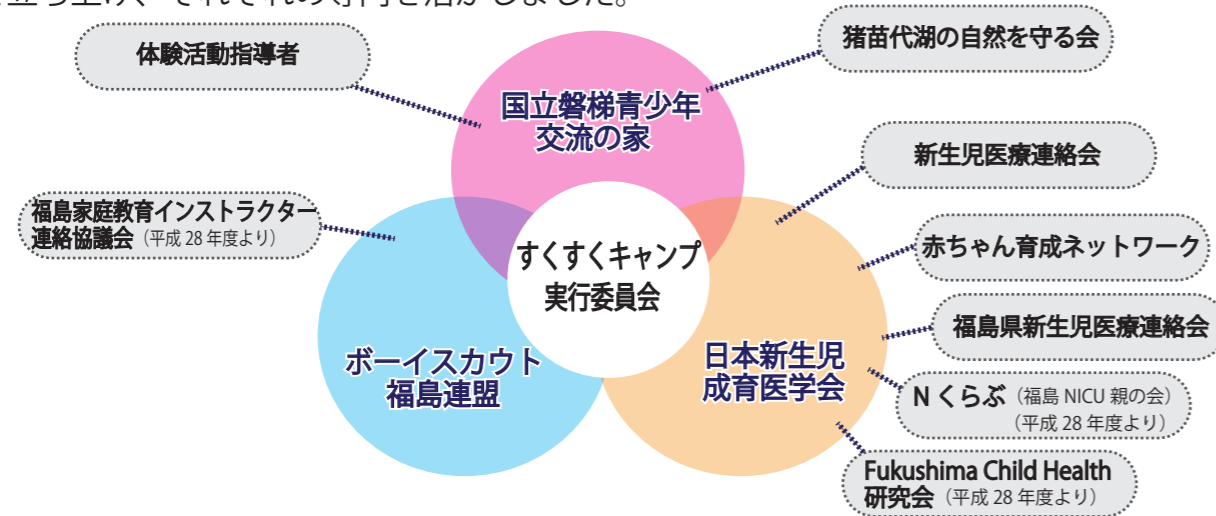
国立磐梯青少年交流の家での実践

★目的★

「すくすくキャンプ」はNICUを経験した児童・生徒とその家族が自然の中で様々な体験活動を通じて、互いの交流を深めるとともに、保護者同士のネットワーク構築する機会を目的として、平成26年から28年までの3年間、日本新生児生育医学会、ボーイスカウト福島連盟、国立磐梯青少年交流の家が連携して実施した事業です。

★組織作り★

安全に楽しく体験活動を行うために関係団体と連携した「すくすくキャンプ実行委員会」を立ち上げ、それぞれの専門を活かしました。



★活動の実際★

プログラムの立案にあたっては、医療・活動・場所を考慮した工夫を行いました。

《プログラムの工夫として》「すくすくキャンプ実行委員会」の議事録より

- ・身体を動かして満足させたい
- ・普段できない自然体験活動をさせたい
- ・次の日に疲れを残さないゆとりあるプログラムにしたい
- ・家族間の交流を持たせたい

1泊2日のプログラムを開発

《参加者・スタッフの人数内訳》

	男性	女性	合計
参加者(11家族)	7	21	28
医師	6	0	6
療法士	2	2	4
看護師	0	5	5
保育士	0	1	1
看護学生ボランティア	2	11	13
ボーイスカウト	6	1	7
家庭教育インストラクター	0	2	2

自然体験活動：「魚の掴み取り」 交流：「保護者と医療関係スタッフの懇親会」

時間	6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00
8/8 (月)	晴天				スタッフ準備	受付	開講式	交流レク	昼食(食堂)	魚の掴み取り	森のつみき広場 休憩 テント設置	夕食 休憩	懇親会(親) カレイドスコップ作り	入浴	就寝		
8/9 (火)	晴天	起床・洗濯	朝のつどい	朝食	部屋点検 テント撤収 荷物整理	野外炊飯 (メニュー ご飯・焼肉)	アンケート 文集作り	閉講式	解散								

家族間のコミュニケーション：野外炊飯

平成28年度「すくすくキャンプ」事業報告書より

平成26年～28年度

「すくすくキャンプ」参加者・スタッフ等の声



参加者(保護者)の声

- ・感謝と感動でした。
- ・イワナの掴み取り体験では、水着を着て張り切って池に入った娘ですが、予想以上の冷たさに絶叫!
- ・外の炊事場で娘と二人で洗顔・歯磨きをしました。娘が「きもちいいね!」とっていて、アウトドアの醍醐味を感じた瞬間になりました。
- ・初めてのキャンプで、同じ子供たちと触れ合うことができ、親も交流して刺激を受けました。
- ・NICUを退院している親は孤立しがちなため、子供たちを助けてくれる先生方が、このキャンプでさらに子供たちの親のことまで考えてくれたのがうれしかったです。
- ・医師、看護師、理学/作業療法士などの専門職の方が多く、安心して参加できました。
- ・親の交流会では、同じ境遇の方々との交流や情報交換ができてうれしかったです。
- ・きょうだいも満足のパログラムでした。
- ・毎年新しい成長を感じます。



NICU医師の声

- ・綿密な打ち合わせのもと、専門性の高い協力団体とともにすべてのプログラムを事故なく行うことができました。この企画が実現できたのは交流の家との出会いのおかげです。
- ・参加者の子供が各課題にしっかりと関わっていたと思います。
- ・家族が協力して取り組む姿が印象的でした。

看護ボランティアの声

- ・学校では学べない子供たちとのかかわりができました。
- ・自分の視野を広げるよい機会となりました。



…その後の参加者の様子…

- ・学校活動の中で消極的だったのがキャンプが自信になって活発になりました。
- ・極度の人見知りのため母親にべったりだったのが、キャンプでいろいろな活動に参加した体験が自信になった、親と離れて行動することができるようになりました。



※掲載写真は本事業のものではなく体験活動のイメージ写真です。

